

短篇 農園風景

青野友平

登貴子は夕方から何にかしら物悲しい似た寂寥感に接いられ...

作者記

この一篇は、匆忙の間に書きあけて、拙稿もアラだらぬ...

登貴子は身にもちみ汗を流して、あつち、窓を開ける勇氣もなかつた...

いふ優待もしてくれなかつた。家に居る間の彼は食卓を離れて...

登貴子は更のやうに二、三年前の農園を思い出して見ない...

登貴子は身にもちみ汗を流して、あつち、窓を開ける勇氣もなかつた...

SEMILLERIA JUAN CALE Y CIA. Casa Matriz: 123 - PUEYREDON - 123

蔵田書店 電話 三三一九八三

新刊案内 急告!! 一九三九年度常用日記

西坂商店 電話 二二一九一〇

日本食料品新人荷 電話 二二一九一〇

斎藤染色工場 電話 二二一九一〇

CAFE JAPONES K. UCHINO 電話 三三一九八三

内野喜吉 電話 三三一九八三

特別大賣出し 電話 二二一九一〇

西和文活版印刷ニッポン堂 電話 二二一九一〇

ERNEST COCO 電話 二二一九一〇

東京堂時計店 電話 二二一九一〇

かまぼこの 電話 二二一九一〇

尾崎幸千代 電話 二二一九一〇

川村クエージョ店 電話 二二一九一〇

洗濯専門 電話 二二一九一〇

告示

来る十二月一日より明年一月三十一日迄當館に於て昭和十四年度徴集延期事務を取扱ふべきに付關係者は左記に依り速に手つゞきを取られ度し

帝國領事館

一、在帝國外徴集延期願 昭和十四年度徴集延期願者即大正七年十二月二日より同八年十二月一日迄に出生したる者にして徴集延期を願はんとする者は本告示附屬書式甲號に依り願書正副二通を當館に提出すべし

注意 イ、三の(在留地)は凡て邦字を以て記入すること ロ、捺印に際し印なきときは右手捺印を押しすべし

在帝國外徴集延期願 一、本人 氏名 大正何年何月何日生

注意 イ、三の(在留地)は凡て邦字を以て記入すること ロ、捺印に際し印なきときは右手捺印を押しすべし

在留申告書 一、本人 氏名 何年何月何日生

徴兵適齢届 本籍地 (縣市郡町村字番地) 本人現住地 (縣市郡町村字番地)

年末年始用品 よろづ廣告社 中島 市内グランドベガ街三九九四

JUGUETERIA TORRO SARMIENTO 640 U. T. 34, DEFENSA 1687

FRANCISCO SARTERO mecanico de la Cia. Holman CONSTITUCION 3223 U. T. 45 - 0294

KEROPIX De la Cia. Maspero S.A. CHARCAS 4511 Unión Telefónica 71 - 9998

SASTRERIA "TORRO" SARMIENTO 654 U. T. 34, DEFENSA 3051

GRAN TALLER "EL ASAHI" DE MIYAZONO HNOS. CASA MATRIZ CHARCAS 1873 - U. T. 44, JUNCAL 4366

PLATA BRAUN Marca Registrada Bernardo Braun e Hilo CORRIENTES 4349 - U. T. 54 - 4111

MAQUINAS HOFFMAN BELGRANO 525 U. T. 34 - 1497 Buenos Aires

助産婦 (入院隨意) 高見澤産院 市内ウンベルト・プリモ街一六六三

Medicinal News 28 - Suipacha - 28 淋病梅毒 肺結核新療法

山田忠重 日本建築 大工指物師 山本 玄

日本式 マッサージ鍼灸 リウマチス 呼吸器病

LUIS GORI HNOS. LIMA 1029 - U. T. 23 - 2897 帽子木型製造所

謹賀新年

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------|-------------------------|--------------|--------------------------|---------------|-------------------|----------------------------|--------------|-----------|-----------|-----------|----------------|-----------|-------------|------|-------|-------|---------------|---------------|------|
| 特命全權公使 內山岩太郎 | 公使館一等書記官 兼領事 福間豊吉 | 海軍大佐 花田行武 | 公使館附海軍武官 海軍中佐 重廣篤雄 | 商務書記官 中村義雄 | 公使館二等通譯官 細川鎗太郎 | 外交官補 張徹壽 | 外務書記生 古川靖 | 全 村井正藏 | 全 古川武司 | 全 下保莊進 | 外務通譯生 野村榮次郎 | 囑託 笠原豊 | 囑託 城戶市兵衛 | 白川長孝 | 松原駿 | 吹谷助五郎 | 拓務省囑託 内田千尋 | ニユース係 西野義雄 | |
| 三本重齡 | 岡島元七郎 | 杉村辰二 | 尾崎明 | 芦谷幸一 | 伊藤清藏 | 甘利造次 <small>在東京</small> | 本間鐵雄 | 安東定夫 | 久慈忠 | 飯野榮作 | 大森貞夫 | 石川芳範 | 小川勇 | 廣瀬寛治 | 勝田長三郎 | 大野幹三 | 鈴木驥一郎 | 松田五郎 | 田中德長 |
| 山內輝彦 | 泊哲夫 | 泊武彦 | 上野才次 | 大迫繁造 | 栗谷信 | 有富實雄 | 喜田正雄 | 辛島兄弟 | 崎間裕司 | 羽生兄弟 | 菅原長吉 | 菅原長吉 | 淺野政吉 | 内藤鶴雄 | 大城仁盛 | 福間桂四郎 | 新里善吉 | 藤田正夫 | 庄司善七 |
| 惠木加平 | 池田喜城 | 成田彰 | 岩淵哲夫 | 藤澤幸吉 | 瑞慶覽長榮 | 蒲地盛作 | 山下八郎 | 貴島 | 光岡義家 | 倉知乙三郎 | 福原潔 | 福原潔 | 宮本好 | 木場秀次 | 大山榮吉 | 光森類吉 | 庄司義一 | 櫻井七郎 | 光岡義家 |
| 山内景盛 | 那須壹郎 | 名城嗣好 | 野間口有親 | 諸喜田薰 | 小谷薰 | 宮崎萬作 | 田中長造 | 本田哲 | 本田哲 | 米山直志 | 平安名榮眞 | 石幡任 | 尾上金四郎 | 上原惇 | 川村南海男 | 森正男 | 石井兼利 | 佐藤嘉佐治 | 全四郎 |

在亞日本人會一年の概観

在亞日本人會長 西澤武雄

茲に昭和十四年の新春を迎へ... 在亞日本人會の活動概観... 前年度役員より繼承せる事業... 公認小學校の設立... 社会事業の充實... 祝賀新年の準備...

Multiple congratulatory messages (謹賀新年) from various organizations and individuals, including 南米貿易株式會社, 三菱商事株式會社出張所, 兼松商店, 廣田商會, 石井商會, 加藤絹工場, 安東商會, 山下汽船會社, 服部定雄, 貝石眞三, 勝田商會, 安永桂一, 池田信雄, 新井勇男, 齋藤直路, 興村禎吉, 正金駐在員, 賀正, 賀正, 賀正, 賀正.

多難なりし日亞貿易の一年

白濁正一

逐年堅實なる躍進を續けたる 賣取の舉に出でしむるに至れ 商開始以來未曾有の大暗礁に墜り 日亞貿易は一九三七年に於て遂に之れより先政府の國産品保護に如何にして速かに且つ巧みに 輸出合計八四四八・一五 護奨勵に依り近年無統制に激増此の難關を突破するが現在在 〇圓(日本大藏省統計)と言ふ記せる當國の各種工業は不況の影に課せられたる緊迫且つ重要 に入りては既に其のスタートに ざりし先へ前記輸入品の投 商業會議所及び日本人商社代理 於て甚だ困難なる状態に遭遇せ 賣りの爲め甚大なる打撃を蒙り 店開設は、當國並に各國の商業 即ち前年度に於て歐州大戰 愈々經營困難に陥りたる結果、 團體とも聯絡を取り互に協力し 氣構或は日支事變に依る日本上 六月末に至り當國工業聯盟は國 内工業保護ダンピング防止運動 へて局面の打開に或は言論に訴 を見越して爲されたる當地輸入 新開業誌其他の言論機關を總動 員して輿論を喚起すると共に有 商の日本綿布に對する恩惠買付 力なる政治家を利用してダンピ ング税法案を提出せしめ、 入船毎に積々着荷し、加ふる 布の輸入防遏に努めたる結果、 本邦に於ける相場は却而反落 莫レノ博士の駐日公使決定は此 〇を示したる爲當地市況悪化 日獨伊製品(主として日本綿 布)の輸入防遏に努めたる結果、 資金信用薄弱なる輸入商中に 當國買入は其の成行を憂慮し日 取りを拒む者續出すに至り、當 品に對する商談は一時杜絶する 地稅關は之等荷渡し不能の日本 品を以て充満し當地取立銀行 法案は議會通過を見ずして會期 萬圓の巨額に達するに至れり。 一時稍々下火となり小口對 一若し日亞兩國互に相手國の立 一方當國より輸出は晒霜の被 日本品に對する引合も再開せら 害に依る穀物類の減收の結果輸 たるも東の間に於て、十一月七日 出餘力減退し當國相場高なり たり至り吾人が最悪の場合として 〇と我國が長期作戦に備へ戦時 豫想し居たる自由爲替決濟に依 經濟調整の爲め事前許可制度を 布き輸入に對し制限を加へたる 結果直接間接軍需に關係少き商 品に對する許可取付困難とな 通關するものは總べて豫め爲替 事、當國より日本向輸出の大宗 許可無きものは通關不能とな たる羊毛類の商談激減せり。 然り、乍然從來公定爲替を與へ 戰時工業への轉換に依り重工業 並に化學製品は國內需要に追は され定爲替發給せられ居るを以 れ輸出餘力消滅し其他の雜貨類 ても原料雜等の爲め新規注文 用して輸入せられたる日本より 茲に日亞貿易は輸出入共に一服 の止むなきに至れり。

茲に於て日亞兩國官民が過去 數年に亘り苦心研究を重ね來り 日本人商業會議所よりの懇請に たる日亞爲替協定の必要を痛感 基き應急對策として既約定品約 六六二五圓に對し爲替事前許 可給與方並に一月入港の山月丸 たる模様なるも、兩國共現在の アラビヤ丸、モンテビデオ丸の 經濟状態は數年前に比し著しく悪 化せる爲め双方の主張に多大の 懸隔を生じ終に妥協點を見出し 無條件にて許可を附する様當 不得交渉決裂を告げたる模様は 國外務省を通じ大藏當局と交渉 して誠兩國に取對し遺憾の次第な ければならぬ。

而當國の輸出不振は月と共 たるもモンテビデオ丸積並に既 減退せしめ恩惠輸入に依る滯貨 的の成果を得るに至らず、況や今 は激増し其の賣抜きは愈々困難 後の新規約定に對しては全然見 となり終に一部輸入商として投 當さへ附かず茲に日亞貿易は通

商開始以來未曾有の大暗礁に墜り 此の難關を突破するが現在在 商業會議所及び日本人商社代理 團體とも聯絡を取り互に協力し 定の急進實現方極力研究したる 且つ唯一の鍵たる日亞爲替協 力なる政治家を利用してダンピ ング税法案を提出せしめ、 莫レノ博士の駐日公使決定は此 布の輸入防遏に努めたる結果、 資金信用薄弱なる輸入商中に 當國買入は其の成行を憂慮し日 取りを拒む者續出すに至り、當 品に對する商談は一時杜絶する 地稅關は之等荷渡し不能の日本 品を以て充満し當地取立銀行 法案は議會通過を見ずして會期 萬圓の巨額に達するに至れり。 一時稍々下火となり小口對 一若し日亞兩國互に相手國の立 一方當國より輸出は晒霜の被 日本品に對する引合も再開せら 害に依る穀物類の減收の結果輸 たるも東の間に於て、十一月七日 出餘力減退し當國相場高なり たり至り吾人が最悪の場合として 〇と我國が長期作戦に備へ戦時 豫想し居たる自由爲替決濟に依 布き輸入に對し制限を加へたる 結果直接間接軍需に關係少き商 品に對する許可取付困難とな 通關するものは總べて豫め爲替 事、當國より日本向輸出の大宗 許可無きものは通關不能とな たる羊毛類の商談激減せり。 然り、乍然從來公定爲替を與へ 戰時工業への轉換に依り重工業 並に化學製品は國內需要に追は され定爲替發給せられ居るを以 れ輸出餘力消滅し其他の雜貨類 ても原料雜等の爲め新規注文 用して輸入せられたる日本より 茲に日亞貿易は輸出入共に一服 の止むなきに至れり。

茲に於て日亞兩國官民が過去 數年に亘り苦心研究を重ね來り 日本人商業會議所よりの懇請に たる日亞爲替協定の必要を痛感 基き應急對策として既約定品約 六六二五圓に對し爲替事前許 可給與方並に一月入港の山月丸 たる模様なるも、兩國共現在の アラビヤ丸、モンテビデオ丸の 經濟状態は數年前に比し著しく悪 化せる爲め双方の主張に多大の 懸隔を生じ終に妥協點を見出し 無條件にて許可を附する様當 不得交渉決裂を告げたる模様は 國外務省を通じ大藏當局と交渉 して誠兩國に取對し遺憾の次第な ければならぬ。

而當國の輸出不振は月と共 たるもモンテビデオ丸積並に既 減退せしめ恩惠輸入に依る滯貨 的の成果を得るに至らず、況や今 は激増し其の賣抜きは愈々困難 後の新規約定に對しては全然見 となり終に一部輸入商として投 當さへ附かず茲に日亞貿易は通

謹賀新年

亞國水産商工會社

デフエンサ街一五九七
電話一三三八二五六

謹賀新年

高島屋飯田株式会社

ロドリゲス、ベニヤ街一六二
電話三八一三四一九

謹賀新年

大村商會

サン、マルチン街二三三五
電話三三二二六八三

謹賀新年

横濱建吉

ラメゾン(サツマ)
エスメラルダ街一〇八〇
電話三二一八六〇一

謹賀新年

伊藤忠商事株式会社

太田三郎
サン、マルチン街六六
事務所三〇四、三〇五

謹賀新年

山田商會

モレノ街二〇三七
電話四七四三五四
四四〇五

謹賀新年

谷順治

謹賀新年

畑野伊三翁

東亞企業株式會社

謹賀新年

鈴木高平

加藤物産會社

恭賀新年

須田健吉

恭賀新年

村井商會

謹賀新年

辻才次郎

喪中に付年賀の禮を欠く



| | | | | | | |
|---|--|--|---|---|-----------------------------------|---|
| <p>謹賀新年</p> <p>ミシオネス州 ジエルバル、ピエホ カンボ、グランデ サンタ、アナ サン、イグナシオ ラ、オテイリヤ</p> <p>入植者一同</p> | <p>賀正</p> <p>比嘉榮一 ミシオネス オベラ町</p> | <p>賀正</p> <p>福岡庄太郎 アスレシオン</p> | <p>賀正</p> <p>大城三郎</p> | <p>賀正</p> <p>内間良助</p> | <p>賀正</p> <p>玉城喜慶 ミ州、コルプス</p> | <p>謹賀新年</p> <p>井ノ口榮 小國嶺雄 宮本肇 ツクマン</p> |
| <p>謹賀新年</p> <p>津曲 諦 二 津曲恒太郎 伊藤誠一郎 コリエンテス</p> | <p>謹賀新年</p> <p>坂本俊一 コリエンテス</p> | <p>賀正</p> <p>大城清治 謝花良昌 コリエンテス</p> | <p>恭賀新年</p> <p>比嘉徳次郎 コリエンテス</p> | <p>謹賀新年</p> <p>兼島兄弟 大城清一 コリエンテス</p> | | |
| <p>謹賀新年</p> <p>吉崎 與 吉 内野武兵衛 サルタ</p> | <p>謹賀新年</p> <p>前橋藤吉 サルタ</p> | <p>謹賀新年</p> <p>松山嘉次郎 庄司善右エ門 パラナ</p> | <p>謹賀新年</p> <p>カフエ「ハボネス」 新澤盛吉 外店員一同 サンタフェ</p> | | | |
| <p>明けましてお目出度う</p> <p>カフエ「はぼねす」</p> <p>内野喜吉</p> <p>ツクマン市</p> | <p>謹賀新年</p> <p>藤田友八 チビルコイ</p> <p>賀正</p> <p>中間善右エ門 ドロレス</p> | <p>賀正</p> <p>堀田勝 井上啓行 コンコルディア</p> <p>謹賀新年</p> <p>山口兄弟 ボサーダス市</p> | | | | |

| | | | | | | |
|---|---|---|--|------------------------------|-------------------------------------|--------------------------------|
| <p>賀正 中本一勇</p> | <p>賀正 山田朝功 有木彦十郎</p> | <p>賀正 小牧齊藏</p> | <p>謹賀新年 メンドサ州 星喜六 星明太郎 豊島嘉平 白鳥幸人 菅沼久太郎 兩角榮 寺澤正三郎 安間達三 田代重正 土原茂功 小谷和夫</p> | <p>賀正 稻富兄弟</p> | <p>賀正 田村一惠</p> | <p>賀正 星清藏</p> |
| <p>賀正 石原松左エ門</p> | <p>賀正 大爺一男 福田靜夫</p> | <p>賀正 中村米助 山口末吉</p> | <p>謹賀新年 平井兄弟 サンタフェ市</p> | <p>賀正 比嘉民和</p> | <p>恭賀新年 神谷繁雄 ツクマン市</p> | |
| <p>謹賀新年 カフエ「横濱」 上原清富 コルドバ市</p> | <p>賀正 伏見秀次 全八郎 全義雄 コルドバ市</p> | <p>Feliz Año Nuevo RESTAURANT JAPONES de Luis S. Yamaguishi RIVADAVIA 484 CORDOBA ★</p> | | | | |
| <p>謹賀新年 新垣喜盛兄弟 ロサリオ市</p> | <p>賀正 玉城福棟兄弟 コルドバ市</p> | <p>賀正 比嘉繁助 比嘉德永 コルドバ市</p> | <p>賀正 大城定勝 コルドバ市</p> | <p>賀正 儀部文勇 コルドバ市</p> | <p>賀正 池原嘉誠 池原蒲藏 全松市</p> | <p>謹賀新年 新澤滿徳 チヤカブコ</p> |
| <p>賀正 石原正一 サンティアゴ、デル エステーロ市</p> | <p>謹賀新年 寺田秀吉 寺田義雄 寺田秀雄 レシステンシア市</p> | <p>賀正 上原清正 カフエ「ハボン」 コルドバ市</p> | | | | |
| <p>謹賀新年 伊計武 カフエ「ハボネス」 ベナード、トエルト</p> | <p>謹賀新年 上間源昌 サンタフェ</p> | <p>謹賀新年 上間源昌</p> | | | | |

一九三八年の在亞日本チャリリズム

田川清

亞爾然丁に於ける邦字新聞の傳統をなかり捨て、時代相違ないものであるから在亞同胞チャリリズムを語るには定まつて...

- 賀正 大垣俊雄
賀正 山本喜平
賀正 秋吉寅藏
賀正 本田儀平治
賀正 中島矩
賀正 福田浅吉
賀正 徳門清英
賀正 善野貞雄
賀正 大橋久一
賀正 大橋定一
賀正 河西岩三

謹賀新年 貝原熊三
カフエ「東京」
ウンベルト、プリモ街二〇一三
電話 二二一三三四三

謹賀新年 府内喜平
カフエ「大日本」
コリエンテス街 二五八三
電話 四七六六六三

謹賀新年 片山製作所
カセロス街 一九八三
電話 二二一九八七二

アルゼンチンのこめども

横濱建吉

「押し強さ」
過去三ヶ年、北米と南米の五
大強國が一緒になつて解決にか
つたチヤコ紛争問題も、本年
の亞國獨立紀念日七月九日に、
目出度く平和裡に終結し、ボリ
ビアとパラグアイの兩國が仲直
りしたことは、餘りに知れきつ
た問題である。

「偉人崇拜」
當市パレルモ公園の一角に聳
え立つサルミエントの全身像は、
當面して現れた亞國人の外交
技術に關する「押し強さ」と
その「辛抱強さ」とである。

「愛國心」
國旗は、國家のシンボルであ
る。本年六月二十日に、亞國全
國の都市で、旗日が行なわれ
た。この愛國の儀は、數年前、
亞國の一體職軍人の想ひ付きで、
有志數名が一堂に集つて、亞國
々旗に敬意を表す儀をしたこと
が初まりで、其後、毎年それが
繰返され、年々その儀が盛大
に行はれる様になつたが、それ
は私的一儀式に過ぎなかつた。

「主従の美」
サンタ・フェ街の、エスメラ
ルダ街と、サンマルチン公園の
中間に、正面半丁程の長さの、舊
式二階建の灰色の建築物があ
る。英國前皇帝エドワード八世
が、まだ皇太子であらせられた
頃、亞國を前後二回御訪問にな
つた。その時二回とも、皇太子
は、このサンタ・フェ街の古ぼけ
たエレベーターを二階へ、美
狭い梯子を御昇りになつて、二
十年間病氣で、病床にあるボー

「隅に置けない」
銀齋の人氣役者タイヨウ、バ
ウアーが本年十一月、武市を訪
問して、若いボルチエニアをヤ
ンヤと言はせられたことは餘り
も馬鹿々々しいことであつた。

「偶に置けない」
ボルチエニア
主人が、自分の使つた下女
男に、百萬鎊以上の遺産を残し
たと云ふことは、これを以つて
亞國のレコード破りとする。

があつた。
所が、或日ダンシングの「ヨ
ーン」で、亞國の土人に紹介し
て上げると言ふ友人のはなしを
聞いて、彼の満足は大いしたも
のであつた。ボルチエニア中々
隅に置けない。その友人はオー
グスターの一角であつた美男の
色の淺黒い、身長六尺に近い
大男のクリオージョを、バウア
ー君に紹介して曰く、「ジス、イ
ン」
(一九三八年十二月十五日)

賀正
本出嘉太郎

賀正
宮城良光

賀正
山田忠七

賀正
上桶甚太郎

謹賀新年
明興園本園
賀集九平
サルミエント街六五一
【エスコバル驛前】
明興園生育部
賀集万吉
エスコバル(F、C、C、A)
理想園
賀集九平
小池七郎
エスコバル(F、C、C、A)
賀集九平
エスコバル(F、C、C、A)

恭賀新年
日本雜貨販賣
仲間平助
ベルグラノ街一九九二
電話四七七八二八

恭賀新年
土井友吉
土井直太郎
土井増吉

謹賀新年
染色店「東京」
大坪喜義
インデペンデンス街三六九三
電話四五一一三六五

謹賀新年
染色店「新日本」
渡嘉敷眞昌
モンテステオカ二五七
電話二二一四八〇

謹賀新年
染色店「サツマ」
水流武一
カリオ街一三二五
電話四一〇九七
染色店「マコン」
水流庄吉
サンタフェ街二七五八
電話四一三三三四

謹賀新年
カフエ「京都」
吉田茂
ベンチンコデマヨ
二二二二番
電話三三三七八〇

謹賀新年
明けましてお目出たう
末廣館
尾崎幸千代
パトリンオス街九六
電話二二五七三五

謹賀新年
染色店「ウルキサ」
比嘉桐功
メンドサ街五〇二六
電話五一二四七二

謹賀新年
染色店「みどり」
カビルド街一七八
電話五二〇九三三

恭賀新年
だるま亭
ボリーバル街一五五六
電話二二四〇九二

賀東洋
正東洋軒
コリエンテス街四三三
電話三一六三九四
ベンチンコデ
マヨ街五三三(二階)
電話三一一九三三

謹賀新年
染色店「ハボン」
金城信徳
南部線ベルナル
ベルグラノ街四二二
電話ベルナル二四一

新年
東京堂時計店
パイロット萬年筆
特約販賣
高級御時計修繕並裝身具
東京堂時計店
ベルナルド・デ・イリゴチエン街四七〇
電話【三八】五六一七

謹賀新年
吳屋加味

「印度秘術ロープトリックの謎」

マジックサークル会員 徳永奇洋

「青島の著者メーサー...」
「印度秘術ロープトリックの謎」
マジックサークル会員 徳永奇洋

時事俳句に就て

山岸晋齋

時事俳句に就て
山岸晋齋
俳句は自然の四季の自然代は...

大しと稱して火を燃し、立登るを活物の如く自由自在に、之れせたり五體をバラバラに切離さ...
【以下次號】

Feliz Año Nuevo CAFE y BAR "NIPPON" de Carlos M. Okumura
謹賀新年
山元陶磁器加工場
アベジャネーダ市
カビルド街六〇七番
電話二四一八二四四

今年の運勢

白龍子先生占
石原みのる先生畫

●一白水星

今年はず運の年です。然し多少衰運の兆がありますから、新規の事には手を下さず、手堅く守るべきです。



見に従つて心を平穏に保ち、決して急がず運の開くのを待つことが肝要です。努力は必ず報われるから、効果が見えずとも焦らずに家運の発展を期せられよ。

●二黒土星

幸運に恵まれる好い年です。思ふこと成就して、喜悅に満ちた家運は賤々として延びて行くので、注意を要しません。



ないのは、殊に今年こそ願はず油断せず、怠りぬことです。飽くまで質素に、決して贅澤をせず、神佛の加護を祈つて眞面目に働けば、一層福運を得て發展向上をなし得ませう。

●三碧木星

運気は不調で頗る動搖の兆がありますから、本年は格段の用心が必要です。損も大きく、利益も少ない年です。



つまり短氣を起さず、人と争論せず、焦らずに萬事忍耐して精進するやうに心懸けなさい。轉じては比較的速かに彼らへ達することの出来る働き甲斐のある年です。

●四緑木星

あなたの今年はず運ゆゑ、徒勞になる事が多く、功を収め難いのはお気の毒です。決して發見し、



を起すべからず、只一途に奮事のみ心に集中して、家内の不和、友人知人の不信を招かぬやう戒心は絶えず、大率に損を招かねばよいと諦めねばならぬ年です。

●五黄土星

去年に引續き今年も百事不如意のこと多く、希望は兎角達せぬ勝である。然し矢張り新年に引續いて、



を練磨する考へで堅忍不拔の精神を發揮すべきです。例せば喉をわしめかけられても、下から出で謝罪し、自己を制して我意を張らぬやうにすれば、不慮の災厄を免れ得るでせう。

●六白金星

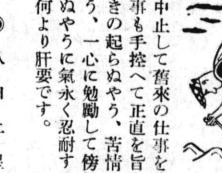
あなたは去年から恵まれてゐる。今年も盛運で福徳圓滿、家運隆盛、思ふことは希望以上に成就



して、やう、飽くまで慎重な態度を保持せねばなりません。運気振はぬ今年が、無事無難に過ぎ得るれば大幸と思つて、退嬰の上で過ぎなきを期すべきです。

●七赤金星

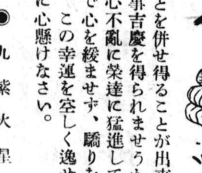
運気轉換、今年になつてあなたは本命年の降り坂です。少くも心の許さない、災害厄難の類を充分に戒慎なさい。



再び盛運に返つて、今年はず運の出来たる大吉祥年です。眞率で正直で温順で、そして勤勉を以て、

●八白土星

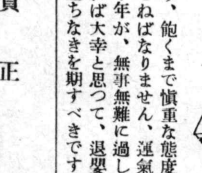
財とを併せ得ることが出来、萬事吉慶を得られませうから、漫ろに失心不慮に突進して、中途で心を緩ませず、驕りを生ぜぬやうに心懸けなさい。



一轉して、今年よりは小事と雖も忽せず、進むにも退くにも少しも油断せず充分に戒慎して

●九紫火星

やう、飽くまで慎重な態度を保持せねばなりません。運気振はぬ今年が、無事無難に過ぎ得るれば大幸と思つて、退嬰の上で過ぎなきを期すべきです。



菊池卯三郎

正賀
大城
新垣

謹賀新年

西坂貞太

謹賀新年

福島為穂

正賀

山内昌章

大城龜造

玉城善徳

正賀

山田次郎

正賀

川村一郎

金子良平

中島常雄

正賀
水野武義

正賀

杉田俊夫

正賀

宮里富一

正賀

竹内重吉

正賀

小原謙助

正賀

宮城昌輝

正賀

山本榮次郎

正賀
高橋秀雄

正賀

入月武

正賀

高橋米治

正賀

徳見寅次郎

正賀

岡田彌四郎

正賀

三浦與吉

正賀

古庄桂藏

正賀
島袋盛善

正賀

太田太三郎

正賀

楯岡實

正賀

高橋善徳

正賀

山田次郎

正賀

川村一郎

正賀

金子良平

正賀
野村明夫

正賀

野村明夫

正賀

野村明夫

正賀

野村明夫

正賀

野村明夫

正賀

野村明夫

正賀

野村明夫

Alcohol Mattaldi 恭賀新年
世界で最も良いアルコール
事務所 パセオ コロン街 七八〇
販賣所 アベニダ デマヨ 七二〇
杉本重三郎



Feliz Año Nuevo

Al comenzar el Año Nuevo, fiel a la tradición, rendimos desde esta lejana tierra nuestro afectuoso respeto hacia nuestra patria, con la cual compartimos su gloria y su dolor. Elevamos, lectores, nuestras plegarias para que en el año que hoy comienza quede consolidada la base de la magna obra histórica y humanitaria a que se halla dedicado el Imperio del Sol Naciente, para salvar la veterana nación vecina y con ella la civilización oriental a fin de implantar la paz del mundo que es anhelada por todos los habitantes del universo.

Saludamos a la Argentina, repitiendo el verso de su sagrado himno: "Al gran pueblo argentino, salud!" y formulamos nuestros votos por la prosperidad, cada vez más creciente de la República, y con ella la felicidad de todos los argentinos.

Extendemos nuestra enhorabuena a todos nuestros lectores y amigos, y en especial a los residentes nipones, deseándoles mayores desarrollos en sus actividades y que sean felices en el año nuevo como dignos colaboradores de la grandeza de la República en cuyo seno vivimos satisfechos y contentos. Si la situación de que goza la colectividad nipona en la Argentina es honrosa para nosotros, es también nuestro deber mantener para siempre esa situación en honor del Japón, que aspira que sus descendientes sean dignos y honrados en todas partes.

Cordiales y fraternales saludos sean para toda la prensa argentina, a los sinceros y activos periodistas que saben exteriorizar el verdadero ideal argentino, de fondo humanitario, como acaba de revelarse gloriosamente en la reciente reunión de Lima, inspirado en los principios de la paz y de la justicia universal.

La nueva situación conquistada en América por la Argentina se asemeja a la del Japón en el Extremo Oriente, pues ambas naciones se mueven con el mismo ideal y propósitos nobles. Las dos naciones, vigorosas, progresistas y decididas, habrán de triunfar en el mundo, en este siglo XX, que será el siglo de la justicia para toda la humanidad.

Adelante, pues: Japón y la Argentina.

H. KATO

Única Fábrica Japonesa de Tejidos de Sedas y Gran Instalación de Tintorería

Correra 2097 y 2111 U. T. 21-1841

FUE INAUGURADA LA DIETA IMPERIAL

Loable Mensaje del Emperador Constitucional

El Emperador del Japón inauguró el lunes 6 el 74º período ordinario de sesiones del TEIKOKU - GIKAI o sea la Dieta Imperial.

La ceremonia tuvo lugar en la Cámara de los Pares y en presencia de los miembros de la Corte, Ministros del Gabinete y altos funcionarios civiles y militares.

Su Majestad pronunció el siguiente discurso, con el cual declaró inaugurada la Dieta Imperial:

"Nos, el Emperador, al declarar inaugurada la Dieta Imperial, le incumba dirigidos los siguientes palabras.

"Miembros de las Cámaras de los Pares y de Representantes:

"Nos complace manifestar que las relaciones entre el Imperio y las naciones extranjeras con las cuales existen la amistad son cada vez más cordiales; nuestros jefes, oficiales y tropas del ejército y de la armada, sobreponiéndose a todas las dificultades, han pacificado ya las regiones principales de China; empero, para establecer el nuevo orden en el Asia Oriental que garantice una paz duradera, debemos esperar de los esfuerzos colectivos de toda la Nación y la Suprema Unión Espiritual del pueblo. Vuestro Emperador confía plenamente en la lealtad de todos vosotros, Nuestros súbditos, para la realización satisfactoria del objetivo así perseguido.

Los Ministros del Gabinete tienen Nuestra orden para presentar a vuestra consideración proyectos de presupuesto de gastos para el año 1939, gastos extraordinarios de guerra y diversas leyes. Confío en vosotros que los estudiareis y los discutiréis con serenidad, teniendo en cuenta la importancia de la circunstancia del momento, para cumplir con vuestro deber de legisladores y representantes de Nuestro pueblo.

POLITICA EXTERIOR DEL JAPON

Declaración del Príncipe Konoye

Tokio, diciembre. — El Príncipe Konoye, premier del Japón, hizo la siguiente declaración sobre la futura política exterior del Japón el día 22 a las 21.25 horas:

"El Gobierno del Japón está resuelto, como lo ha expresado claramente en dos comunicados anteriores dadas a conocer durante el año, proseguir las operaciones militares en China hasta la completa extirpación del gobierno anti-japonés del Kummintang, y, al mismo tiempo, establecer un nuevo orden en Asia de acuerdo con aquellos esclarecidos chinos identificados con nuestros ideales y aspiraciones. Un avasallador espíritu de renacimiento y de reconstrucción está floreciendo en to-

das partes de China y, el Gobierno del Japón, en presencia de este vasto movimiento se complace en hacer pública su básica política que consiste en ajustar las relaciones entre Japón y China en forma tal que sus intenciones puedan ser adecuadamente entendidas tanto en el país como en el extranjero.

Japón, China y Manchoukuo, estarán unidas por el anhelo común de establecer un nuevo orden en el Este de Asia, una verdadera cooperación económica y de forjar familiares vinculaciones de común defensa contra el Comunismo.

Para este fin es necesario antes que nada que toda China olvide sus prejuicios creados artificialmente por una propaganda sistemática e interesada contra el Japón y que deje de lado su resentimiento con el Estado de Manchoukuo.

En otras palabras, Japón desea que China entre francamente en completas relaciones diplomáticas con Manchoukuo.

Japón tampoco puede tolerar la influencia del Comintern en el Este de Rusia. Por esto, Japón considera como una condición esencial, para el reajuste de las relaciones chino-japonesas, la conclusión de un convenio anti-comintern, suscrito por las dos naciones, en consonancia con el espíritu del acuerdo que suscribieron Japón, Alemania e Italia y, con el propósito de ese fuese, Japón pide, en vista de las prevalentes circunstancias actuales en China, que las tropas japonesas como medida de precaución anti-comunista, puedan establecer su vigilancia en puntos que se especificarán en el convenio y también que la región conocida como Mongolia Exterior sea designada especialmente como área anti-comunista. Con respecto a las relaciones económicas entre los dos países, Japón no intenta ejercer el monopolio económico en China, ni tampoco tiene la intención de reclamar de China los intereses de terceras potencias que retienen situaciones privilegiadas en el nuevo Este Asiático. Japón únicamente busca hacer efectiva la cooperación y la colaboración entre los dos países, vale decir que Japón reclama que China, de acuerdo con los principios de equidad entre los dos países reconozca la libertad de residencia y de comercio por parte de los súbditos japoneses, en el Interior de China, con vistas a promover beneficiosos intereses económicos para ambos pueblos y que a la luz de históricas y económicas relaciones entre las dos naciones, China extienda a Japón aquellas facilidades que facilitarán el desenvolvimiento de los recursos naturales de China en las regiones del Norte de este país y de

INSTITUTO CULTURAL ARGENTINO JAPONES

EL LIBRO DEL TE: Por Kakuzo Okakura y otros libros sobre Japón.

En Venta en la Maison Satuma
ESMERALDA 1080

PAGINA DE ACTUALIDADES

FERIADO DE LA LEGACION JAPONESA

La Legación y Consulado del Japón anuncian que no funcionarán sus oficinas desde el 29 de diciembre hasta el 3 de enero, inclusive, con motivo del feriado de Año Nuevo.

El primero de enero habrá un acto, como de costumbre, en la residencia del Ministro del Japón, al cual están invitados todos los residentes nipones para celebrar la entrada del año nuevo y para rendir homenaje a S. M. el Emperador del Japón.

LA ACCION MILITAR DE LOS NIPONES EN CHINA

El Cuartel General del Ejército Imperial ha dado a la publicidad las siguientes informaciones concretas:

Las Bajas. — Los cadáveres enemigos recogidos en los campos de batalla, 823.300; bajas enemigas, entre muertos y heridos, se estiman en más de 2.000.000 desde el comienzo de las hostilidades.

Bajas niponas, en total: 47.133.

Las extensiones de líneas de combate: Desde Hanchow, en el sur, a través de las provincias del centro a lo largo del F. C. Pekín - Handow, desde Kalfeng, las provincias de Shan-si, Sui Yuang Chahar, más allá de Pekín, en el norte, forman un conjunto de 2975 kilómetros de línea de combate, que es casi cuatro veces mayor que la línea de combate del oeste de la gran guerra europea que fue de 790 kilómetros, sin contar, la del extremo sur de China que, por su parte, mide 425 kilómetros.

La extensión del territorio chino ocupado por las fuerzas hacia fin de noviembre p.p.d. era de 1.515.700 kilómetros cuadrados.

ECOS DEL DISCURSO DEL PRIMER MINISTRO

Tokio, 25 diciembre. — El diario Nichi-Nichi comenta editorialmente el discurso del Presidente del Consejo de Ministros, Príncipe Konoye en estos términos: La pujante energía que está revelando el pue-

blo chino, frente al Kummintang sobornado por los rojos, merecían las palabras inflamadas de solidaridad continental que acaba de pronunciar el Príncipe Konoye. Los pueblos occidentales deben reflexionar serenamente las palabras llenas de humanidad que acaba de pronunciar el Japón, a pesar, que muchos compatriotas han perecido en el campo de batalla arrastrados por los ultrajes que nos prodigó el odio encendido por las manos criminales de los rojos. El discurso del Príncipe Konoye es una magnífica página de unidad y de solidaridad continental, digna de figurar entre los grandes documentos que registra la Historia del Asia. En ellas no se hace mención a conquistas territoriales, tampoco se reclaman indemnizaciones de guerra, ni de adquisiciones por dinero, se habla un lenguaje espiritual y superior y se busca algo para nosotros más fundamental: la amistad de nuestros hermanos en civilización.

Peiping, 25. — Las declaraciones del Príncipe Konoye, Presidente del Consejo de Ministros del Japón, sobre las bases que Japón, cooperará a un nuevo orden de paz y prosperidad en el Este Asiático, con la cooperación de los hombres de Peiping, ha producido grandes demostraciones de júbilo entre la población y se cree que está próxima la terminación del conflicto que estallara a raíz del incidente del Puente de Marco Polo.

Shanghai, 25. — Informaciones procedentes de la región China donde domina Chiang - Kai - Shek, hacen saber que ha impresionado muy favorablemente las condiciones que Japón está resuelto a llevar adelante para establecer el nuevo orden político y económico en el Este del Asia. Como se sabe estas condiciones son: primero, la adhesión al pacto anti-komintern, por parte de China; segundo, reconocimiento del Manchoukuo, por parte de China, y tercero, el establecimiento de ciertas guarniciones militares en el interior de Mongolia, para hacer efectivo el pacto anti-comunista que se proyecta ya que su vecindad con la Mongolia Exterior, dominada por los rusos hacen peligrosa los propósitos de pacificación.

Canton, 26. — El sebor Ching-Wai, edulista conocido ha manifestado lo siguiente:

sobre las declaraciones que ha formulado el Presidente del Consejo de Ministros del Japón, Príncipe Konoye: La principal condición que debe estar revestida un estadista para salvaguardar los intereses de su pueblo debe ser el del valor moral que lo hace parar o retroceder cuando se ha metido en un camino peligroso o desviado. Esta es precisamente la situación de China que, empujada por el Komintern y por las manos ocultas de intereses económicos antagónicos en China se lanzó a una guerra insensata con Japón. La ayuda que recibió de afuera, después de haber sido arrastrada al conflicto ha sido vergonzante y prácticamente nula. Estamos solos y nuestro aislamiento será mejor si los intereses de terceros así lo aconsejan. Se nos ofrece ahora, una paz honorable: aceptémosla. No nos piden compensaciones territoriales, ni indemnizaciones. Nos piden una cosa que ya tenemos irremediablemente perdida: el reconocimiento del Estado del Manchoukuo. Reconocámoslo. O es que acaso lo hemos de recuperar. Se nos pide un pacto anticomintern. Acaso no ha sido éste, el que al inmiscuirse en la política de China, no ha convalidado al país, arrastrándonos a la guerra contra Japón? En cambio de esto Japón nos promete un sólido bloque económico en el este asiático que nos devolverá la tranquilidad y nos traerá la prosperidad, además, la abolición del régimen humillante de la extraterritorialidad y de las concesiones especiales, que gozan las naciones occidentales, regiones que hasta han sido abolidas del Egipto.

ES CRITICADO EL CREDITO OTORGADO A CHINA

New York, 26 de diciembre. — Una comunicación especial procedente de Washington, del diario neoyorquino "Herald Tribune" dice que el diputado Widson del partido demócrata opinó lo siguiente acerca del crédito norteamericano en favor de China: "El crédito otorgado a China por la Unión constituye claramente una evidente violación del Derecho de Neutralidad; pues para un beligerante como que lo es China en estos momentos, dicho crédito no es sino un empréstito de guerra."

Agreguemos a esto que el pueblo estadounidense ha manifestado en repetidas ocasiones la inconfundible voluntad de no querer verse envuelto en ningún conflicto internacional. La declaración del Secretario de Hacienda acerca de esta cuestión, en favor del citado crédito ha violado y desconocido evidentemente la voluntad y el conocimiento de los estadounidenses acerca de la conveniencia de tales operaciones financieras. Aunque el emisor de dicho crédito a China sea el Estado, en realidad, es el pueblo que con el impuesto debe responder a la carga, de manera que es una necesidad constitucional su revisión y examen en el Congreso.

Mongolia Interior. He aquí en líneas generales lo que Japón reclama de China:

El verdadero objetivo de Japón al conducir su vasto plan militar no es con miras de conquista territoriales ni está en sus propósitos reclamar indemnización por el costo de las operaciones militares. Japón reclama solamente de China el mínimo de garantías necesarias para ejercer su función de participante en el establecimiento del nuevo orden. Japón no solamente respeta la soberanía de China, sino que está preparando para dar positiva cooperación en la cuestión de la abolición de la extraterritorialidad y supresión de concesiones extranjeras y de establecer lo que sea necesario para la entera independencia de China.

LAMPARAS "YAMADA" DE CALIDAD



Luz Clara - Terminación Prolija - Selección Especial

USE LAMPARA "YAMADA"

En venta en las buenas casas del ramo

Galería Literaria del Japón Contemporáneo

Shusei Tokuda

Por Seiichi Funahashi

El primer trabajo de Shusei Tokuda, titulado YABUKOJI, apareció en la revista literaria "Bungaku Kurabu" el 29 de agosto de 1896. Era el producto de sus estudios realizados bajo la guía del eminente escritor Koyó Ozaki, y desde entonces ha sostenido sin interrupción su actividad literaria. Durante ese largo espacio de tiempo, aunque tranquila y ordenada, su vida literaria no estuvo exenta de vicisitudes diversas. En el primer período, cuando estuvo bajo la influencia directa de Koyó Ozaki, el leader de la escuela "Kenkyusha" de la literatura moderna del Japón, escribió una serie de novelas familiares de la vida contemporánea, de las cuales sobresale la "Kumo no Yukue" — (Dónde van las nubes). Por cierto período fué estimado como los "Cuatro Grandes" de la escuela de Ozaki, junto con Kyoka Izumi, Fuyo Oguri y Shunyo Yanagawa. Pero parece que en esta época el autor no hacía su trabajo propio, por decirlo así, y seguía su escuela contra su voluntad. Para satisfacer su propia vocación y con la determinación de ser sincero consigo mismo, comenzó a estudiar la vida real, según lo expresa en el prefacio que escribió en una colección de trabajos que publicó en esa época: HANATABA — (Ramo de flores) —, SHOKAZOKU — (Pequeña nobleza) — etc. En otras palabras: mientras mantuvo relación con la escuela Kenkyusha, era en el fondo un naturalista, y como tal, gradualmente se separó de dicha escuela y, rechazando su propia obra, avanzó su propio camino independizándose.

Poco después, muerto ya Ozaki, nuestro mundo literario fué embargado con el espíritu reformador, prevaleciendo la escuela naturalista. Este movimiento era irresistible para Shusei Tokuda. Se proclamó sin vacilar, su calidad de tal, y publicó, unas tras otras, sus grandes novelas: SHINSHOTAI — (La nueva familia) —, ASHIATO — (Marcas de pie) —, KABI — (Moho) —, TADARE — (Inflamación) — y otras. KABI, en particular, es una novela de fama histórica como la primera novela japonesa descrita por el autor en primera persona. Teniendo como centro la vida erótica de un Samurai, literario, y O-Gin, la hija de su vieja sirvienta, contiene también la patética descripción de la grandeza y decadencia del grupo de los escritores de la escuela Kenkyusha, así como la escena de la muerte de Koyó Ozaki.

Con el comienzo de la era de Taishó (1912) tuvo Tokuda una mayor prosperidad con sus actividades literarias. Su primera obra de ese período, ARAKURE — (Aspereza) — la más representativa entre sus mejores novelas y que forma el trío, con KABI y TADARE, de su obra maestra. Lo que más llama la atención en esta novela, es la emancipación del autor de la tristeza asociada con el naturalismo que lo tenía cohibido, que le da una nueva concepción, fuerte, brillante y fresca; que la heroína de la novela O-Shima, no es una

simple derrochadora vulgar, sino que es, al mismo tiempo, una mujer enérgica, y que su despreocupación para pasarse de un hombre a otro no es necesariamente un signo de decadencia, es otro de los puntos buenos de la obra. Además, ya que al final todas las sombras se aclaran y no ofrece el epílogo, como en la mayoría de sus obras anteriores, afirmación de ideas convencionales, la novela proporciona al lector una impresión fuerte.

Luego, sea la personalidad de O-Shima en la novela Arakure, o la O-Masu en Tadare, o la O-Saku en Shinshotai, o la O-Gin en Kabi, todas ellas son mujeres vulgares; se trata de la descripción minuciosa de la vida ordinaria de la mujer de tipo común, y es lo que constituye el elemento típico del realismo de Shusei. El público lector que había estado acostumbrado a las escenas amorosas entre hombres hermosos y mujeres bellas, descritas por los autores de la escuela Kenkyusha, se sintieron algo extrañados al enterarse de la vida real tal como es, pero, reaccionándose, reconocieron el valor de esta nueva literatura, la que se afirmó como una nueva tendencia literaria del Japón.

Aparentemente, ARAKURE es una de las obras que el mismo autor estima mejor entre sus obras, pues, el Magazine que el autor dirige lleva también ese título: ARAKURE.

Después de la publicación de Arakure, el autor entró en un período de relajamiento. Entretanto, obstinadamente, el mundo literario estaba en vías de degeneración, y entraban a la escena autores nuevos. Shusei Tokuda estaba viejo. Eventualmente se encontró un día que lo llamaban el maestro veterano. Trabajó hasta mediado de la era de Taisho, época en que Toson Shimazaki escribía su ARASHI (La tempestad), con su novela MOTO NO EDA E — (Vuelta a su nido) —: esta obra fué muy bien recibida. Ya en esta época se generalizó la versión de que el maestro veterano estaba regenerado.

Después, una vez más, cayó en inactividad. La pobreza amenazó su existencia. Mas, entrando en la era de Showa — (1926) — las producciones de Shusei Tokuda recobró, por vez tercera, una vida activa. SHI NI SHITASHIMU — (Acariando la muerte) seguido por KUNSHO — (La Condecoración) —, RAZO — (El desnudo) — y KASOJINBUTSU — (Dis-

frazado) — son obras de gran éxito del período.

Todavía en el presente, Shusei Tokuda es un escritor asiduo, dedicándose a la tarea con su inalterable espíritu juvenil, y continúa gozando del favor público hoy como hace cuarenta años. Difícilmente se puede encontrar otro autor semejante en cualquier parte del mundo con una vida literaria tan larga.

Lo que distingue la producción literaria de Shusei Tokuda, puede ser definida sucintamente como sigue: la descripción realista adecuada y precisa, libre de extremismo y exageraciones, lo cual es fácil de decir pero muy difícil de cumplir en la práctica.

Sin embargo, si analizamos bien, Shusei Tokuda no es un realista en el sentido real de la palabra. El gusta de describir la vida natural, ingenua de las personas; pero sus personajes son todos de carne y hueso, personas reales. Las figuras humanas cavadas en el realismo de este autor son todas personas ordinarias vistas en su vida natural envueltas en su atmósfera diaria, sin ninguna exageración ni añadidura imaginaria. Puede que las obras de Shusei Tokuda no sean elegantes producciones del tipo romántico, pero es evidente que ellas buscan la belleza incomparable que tiene en común la naturaleza y el hombre. Y es un defecto de poco alcance el quererle pegar la belleza literaria a la obra de Shusei Tokuda.

AVANCE JAPONES EN SHANSI

Ling-fong, 26. — La gran ofensiva de las fuerzas japonesas en los montes del Oeste de la provincia de Shansi fué iniciada en la madrugada de ayer; hoy se anuncia que las fuerzas chinas comenzaron a retirarse, habiendo sido batidas totalmente.

WANG-CHING-WEI ES ANTI-COMUNISTA

Tokio, 27. — La Asociación para el estudio de las ideas y movimientos socialistas internacionales al recoger los rumores sobre las actividades del señor Wang-Ching-Wei, para lograr el restablecimiento de la paz entre China y Japón, recuerda que el mencionado hombre público chino hace algunos años señaló que el agotamiento económico chino y la decadencia del comercio y de la industria se debía a la acción de las ideas y de la política bolchevique, Wang-Ching-Wei, decía: Las tropas comunistas chinas, que han infectado las provincias centrales y del Sud, desde 1927 y la administración en los distritos soviéticos, efectuaron un cambio radical en la ley de propiedad de la tierra, deportaron a los agricultores ricos, confiscaron la propiedad, trayendo como consecuencia la decadencia de la agricultura y el atraso de la venta en el mercado de los productos.

Sastrería Japonesa

Fundada en el año 1916

de S. Katayama

PIEDRAS 572

U. T. 33-5452

DOCTRINA ARGENTINA SOBRE SOLIDARIDAD

En homenaje a la Gran Nación Argentina, insertamos a continuación el texto de la Declaración de Lima, presentada por la delegación argentina, como expresión fiel del Gobierno de la Nación.

He aquí el documento que será histórico:

"La VIII Conferencia Internacional Americana, considerando que los pueblos de América han alcanzado su unidad espiritual debido a la similitud de sus instituciones democráticas, su inquebrantable fe en la paz, sus profundos sentimientos de humanidad y tolerancia, su adhesión absoluta a los principios del derecho internacional, igualdad en la soberanía de los estados y a la libertad individual sin prejuicios religiosos o raciales;

"Que basándose en dichos principios y anhelos persiguen y defienden la paz del continente y colaboran unidos por la causa de la concordia universal;

"Que existe entre las repúblicas ame-

ricanas una solidaridad natural, en virtud de la cual cualquier acto cuyo fin sea la alteración de la paz e independencia de que gozan, afecta a intereses comunes de las mismas;

"Que la Conferencia de Consolidación de la Paz de Buenos Aires aprobó el 21 de diciembre de 1936 la declaración de principios de solidaridad y cooperación americanos,

"Los gobiernos de las repúblicas americanas declaran:

"Primero: Que, fieles a los principios democráticos propios a su régimen institucional y soberanía absoluta, reafirman su decidida voluntad de mantenerlos y defenderlos contra toda intervención o actividad extraña.

"Segundo: Para el caso de que la paz, seguridad o integridad territorial de cualquiera de las repúblicas americanas se vean amenazadas por actos de fuerza de cualquier naturaleza y origen por parte de potencia continental o extracontinental, proclaman su interés común y su determinación de hacer efectiva su solidaridad coor-

dinante sus respectivas voluntades soberanas mediante el procedimiento de consulta que establecen los convenios vigentes y declaraciones de las conferencias interamericanas por los medios que en cada caso aconsejen las circunstancias. Queda entendido que los gobiernos de las repúblicas americanas actuarán independientemente en su capacidad individual, reconociéndose ampliamente su igualdad jurídica como estados soberanos.

"Tercero: Para facilitar las consultas que establecen este y otros instrumentos americanos de paz, los ministros de relaciones exteriores de las repúblicas americanas celebrarán, cuando lo estimen conveniente y por iniciativa de cualquiera de ellos, aquellas reuniones en las diversas capitales de las mismas, por rotación, sin carácter protocolar. Cada gobierno puede, por circunstancias y razones especiales, nombrar un representante que sustituya a su ministro de relaciones exteriores.

"Cuarto: Esta declaración se conocerá como "Declaración de Lima".

| | | | |
|---|---|--|---|
| <p>"NAMBET" Compañía de Importación y Exportación Sociedad Anónima Telegramas "NAMBEI" U. T. (33) 3001, 3002, 3003, 3004, 3005 y 3571 T. T. Buenos Aires, 904 SARMIENTO 470 BUENOS AIRES</p> | <p>T. NISHIZAWA Representante de Mitsubishi Shoji Kaisha, Ltda. FLORIDA 229 - U. T. 33-2981-2982</p> | <p>F. KANEMATSU y Cía. Ltda. Importaciones y Exportaciones JUJUY 136 - U. T. 45, Loria 5823 y 5824</p> | <p>S. TSUJI Importador BALCARCE 682 - U. T. 33 Avda. 5744</p> |
| <p>H. KATO Única Fábrica Japonesa de Tejidos de Sedas y Gran Instalación de Tintorería HERRERA 2097 y 2111 - U. T. 21-1941</p> | <p>S. YAMADA y Cía. Importadores MORENO 2039 U. T. Cuyo, 47-4854 y 4405</p> | <p>PIDA SIEMPRE Marca KANEBO PARA TEJIDOS RIVADAVIA 1210 (4o. piso) U. T. 38 - 3239</p> | <p>LA MAISON SATUMA K. YOKOHAMA Objetos de Arte y Antigüedades ESMERALDA 1080 - U. T. 31-8601 Suursal: SUIPACHA 865 - U. T. 31-4837</p> |
| <p>SADAO HATTORI IMPORTADOR Especialidad en artículos de Cepillería LINIERS 649 - U. T. 45, Loria 321P</p> | <p>IIDA y Cía. Ltda. (Takahimaya) Importadores y Exportadores RODRIGUEZ PEÑA 162 U. T. Mayo 38-3419</p> | <p>M. OMURA Importador de artículos generales del Japón SAN MARTIN 235 - U. T. 33-2683</p> | <p>S. KAISEKI Representante de DAIDO BOEKI KAISHA LTD. Kobe, Japón Importación y Exportación MORENO 1388 - BUENOS AIRES U. T. 38 - Mayo 7286</p> |
| <p>KATSUDA y Cía. Importadores MEXICO 1474 - U. T. 38, Mayo 2313</p> | <p>N. HARA y Cía. Importadores BELGRANO 1470 U. T. Mayo 38-2438 y 9437</p> | <p>S. ANDO y Cía. Importadores DEFENSA 532-40 U. T. 33 (Av.) 2296</p> | <p>NAOJI SAITO BUENOS AIRES BOEKI ASSENJO ROQUE S. PEÑA 616 - 7º PISO U. T. 33 - 6374</p> |
| <p>B. TAKINAMI Importador Casa Establecida en el año 1905 VICTORIA 733 - U. T. 34 - 0812</p> | <p>CARLOS C. ISHIY Importador y Exportador Bm. MITRE 341 - U. T. 33 Avda. 9782</p> | <p>JIRO HONDA y Hno. Importadores de Artículos Generales del Japón MORENO 1320 - U. T. 38 Mayo 2718</p> | <p>GUIA JAPONESA LEGACION DEL JAPON: Reconquista 336. - U. T. 31-3193. CONSULADO DEL JAPON: Reconquista 336. U. T. 31-0978</p> |
| <p>I. HIROTA Importador de artículos generales del Japón CHILE 1029 - U. T. 37 (Riv.) 0251</p> | <p>TAKAO ARAI Representante de B. ESPECIE DE YOKOHAMA Ltda. Avda. ALVEAR 3900 - 7o. piso U. T. 72 - 1469</p> | <p>Casa "YAMANAKA" Oriental Fine Art Curious VIAMONTE 624 - U. T. 31 7846</p> | <p>CAMARA DE COMERCIO JAPONESA: Avenida Roque Sáenz Peña 616. 7o. Piso. - U. T. 33, 1452. INSTITUTO CULTURAL ARGENTINO-JAPONES: Viamonte 1435.</p> |
| <p>N. IKEDA The National City Bank of New York BARTOLOME MITRE 502 U. T. Avenida 33 - 4031</p> | <p>CASA ITOH (S. OHTA) Representante de C. Itoh y Cía. Ltda. SAN MARTIN 66 - Esc. 304-305 U. T. 34, Defensa 5158</p> | <p>K. KAWAI Compañía Argentina, Comercial e Industrial de Pesquería DEFENSA 1597 U. T. 33. 8256</p> | <p>ASOCIACION JAPONESA: Patagones 840. - U. T. 23-4893. COMPARIA DE VAPORES O. S. K.: ROQUE S. PEÑA 616 - 2º Piso U. T. 33-1051 - 1052 - 1053 y 9956</p> |